



ひきこもり支援ハンドブック 寄り添うための羅針盤

支援ハンドブックの事例などを当事者視点から読み解き、本人の体験とともに、対話を通して考える実践講座 全10回シリーズ

当事者は親亡き後をどう考える？ 第2回
親亡き後を見越したサポートとは
親亡き前から亡き後へ
当事者に必要なつながりとは？

6月17日 火
14時00分～16時30分
オンライン



当事者講師

田中 敦 (たなか あつし) 60歳

NPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク代表。3年前に両親を立て続けに亡くし現在一人暮らし。還暦60歳を迎え3月末で23年間勤めた学校付相談員を退職。仲間と立ち上げたNPO活動に専念しつつ週1回大学で社会福祉を教えています。若い人たちからエネルギーをもらい生きる糧となっています。不登校ひきこもり経験者。

田中敦さんと西脇さんは、地域包括支援センターの紹介で、令和3年からつながり、親亡き前、亡き後も困ったときに連絡を取り合える関係づくりをしている

あなたなら、どうかかわりますか？



インタビュアー 池上正樹

約30年にわたり、ひきこもり関係を取材、数千人の本人たちと関わる。阿部さんを取材した記事がYahoo!ニュース「ベストエキスパート2025」グランプリ受賞。8050問題に関する既成概念を打ち破った。(ジャーナリスト「SHIP!」発行人・代表理事)



対話ゲスト 西脇利恵さん

ケアマネジャー、認知症対応型通所介護、老健立ち上げ、居宅立ち上げ、訪問介護、歯科助手。前職 札幌市中央区の認知症対応型通所介護で5年間生活相談員。在宅を継続していくため家族支援の大切さを学ぶ((株)Nハートネットワーク代表)

厚労省「目指すは“自立”ではなく“自律”」 15年ぶりに新たな「ひきこもり支援」指針を自治体に通知

「就労」や「社会参加」にフォーカスするよりも、その手前の対応にボリュームを割いている。関わり方もひとりひとり違い、パターン化して当てはめるのは難しいからだ。現場の支援者が同書を手に取っても、どう活用すればいいのかわからず、ナビゲーターによる学習会なども必要になるかもしれない。ただ、ひきこもり状態にある本人の大半は、就労や社会参加の手前のところでそれぞれ苦しんでいる実態を考えれば、悩みのプロセスを共有しながら一緒に考えていくことは、現実在即しているといえる。

ジャーナリスト池上正樹Yahoo!ニュース抜粋(2025.2.5)

厚労省「ひきこもり支援ハンドブックの目的・背景」概要より

「ハンドブックに記載されている内容をもとに、支援を受ける本人やその家族等との対話を通して、より良い支援を実現していく」

お申込、詳細はコチラ



<https://shiphiki.jp/>

ひきこもり支援ハンドブック 当事者視点から 対話を通して考える実践講座

各回14時～16時30分(オンライン)
オンデマンド配信有り

ひきこもり当事者・経験者の講師を招き、各テーマに即したハンドブック事例を読み解き、ゲストとの対話・質疑応答を行います。対話ゲストには、当事者との信頼関係を築き、実践を重ねている支援者をお招きして、一緒に対話を行います。支援現場での当事者との関係づくり、実践のヒントをぜひ持ち帰ってください。



コメンテーター
池上正樹
(ジャーナリスト)

全10回シリーズ(オンライン講座)講師・テーマ一覧

6/17

当事者は親亡き後をどう考える？親亡き後を見越したサポートとは

NPO法人レターポスト・フレンド・ネットワーク代表 田中敦

3年前に両親を立て続けに亡くし現在一人暮らし。還暦60歳を迎え3月末で23年間勤めた学校付相談員を退職。仲間と立ち上げたNPO活動に専念しつつ週1回大学で社会福祉を教えています。若い人たちからエネルギーをもらい生きる糧となっています。不登校ひきこもり経験者。

対話ゲスト(支援者との対話)

横浜ハートネットワークケアプランすりーえいちデイサービスもいろはーと代表(主任介護支援専門員)西脇利恵氏



7/31

「自律した人生」とは何なのか？ひきこもりから動いた後も続く苦しみを考える重要性

長期ひきこもり経験者・社会福祉士 とし

中学校によるクラス中からの排除と、暴力を伴ういじめ被害により不登校になり、そのまま10年以上ひきこもる。あるきっかけで動き出し介護職に就くが、いじめ後遺症による職場との衝突で退職を繰り返した。ひきこもり当事者活動への参加をきっかけに、仕事とひきこもり関連の活動を半々にすることで現在に至る。放送大学卒。

対話ゲスト

東京学芸大学 総合教育科学系 教育心理学講座
臨床心理学分野 教授 福井里江

8/19

どうしたら支援につながるのか？本人の意向を確認するポイントとは

SHIP!副編集長石井英資

1982年生まれ。大学院在学中にひきこもりを経験し、その体験からひきこもりや不登校に対して興味を持つようになった。またひきこもり期間中にゲームに救われたこともあって、ネットやゲームのポジティブな側面にも興味を持っている。

対話ゲスト

国立市社会福祉協議会 飯田公也



9/16

家族への長期間の支援はなぜ有効？家族間の関係性に目を向ける

ヒューマン・スタジオ代表
丸山康彦

高校時代の不登校と大学卒業後のひきこもりを経て、2001年ヒューマン・スタジオ設立。2003年度から不登校・ひきこもり相談室として現在に至る。藤沢市社会福祉協議会アドバイザーも兼ねる。著書『不登校・ひきこもりが終わるとき』(照林社)

対話ゲスト

樋口敬子氏(藤沢市社会福祉協議会)



10/21

広報は大切な支援です～支援につながるための広報・周知について～

(一社)ひきこもりUX会議代表理事
林恭子

高2で不登校、その後30代まで断続的にひきこもる。2012年から"当事者発信"を開始し、イベント開催や講演、研修講師など。著書に『ひきこもりの真実一就労より自立より大切なこと』(ちくま新書)

対話ゲスト

調整中 ※決定次第 HP に掲載

※この回は16時終了



11/20

居場所支援・居場所づくりとは？参加してもらえるための工夫

ひきこもり当事者グループ「ひき桜」Jin横浜 代表 割田大悟

20代で心身を壊し短期間のひきこもりを繰り返す。生きづらさと不安を抱えながらさまよっていたところひきこもりの居場所にたどり着く。数年後に「ひき桜」Jin横浜を立ち上げて当事者会やピアサポート普及啓発を行い、現在も運営中。

対話ゲスト

明治学院大学社会学部 社会福祉学科 准教授
関水徹平(社会学者)



12/16

きょうだいはキーパーソン？きょうだいとの連携について事例から考える

間野誠(まのせい)さん

1967年新潟県生まれ。弟の大学在学中に兄がひきこもりはじめる。以来兄の存在に悩まされる。原因は父にあると思ひ長年不毛な戦いが続くが、2016年11月に奇跡的に和解。同時に兄のことも恥だと思わなくなり周囲に話せるようになる。兄も現在は元気に暮らしている。(一社)OSDよりそいネットワーク所属。

対話ゲスト

山根俊恵(NPO法人ふらっとコミュニティ理事長)



1/20

障害福祉サービスを受けるハードル 就労支援につなぐ、つなげるポイントとは？(予定)

2/17

支援対象者が変化を望まない、支援を中断、拒絶する場合の理解 希死念慮

喜久井伸哉さん

1987年生まれ。詩人・フリーライター。「不登校」と「ひきこもり」の当事者手記を数多く執筆している。共著『いまこそ語ろう、それぞれのひきこもり』(日本評論社2020年)。単著『詩集 ぼくはまなざしで自分を研いだ』(私家版2020年)。



コーディネーター・司会進行
上田理香(「SHIP!」発行人 代表理事)

自身のひきこもり、生きづらさ経験を活かし、2012年よりKHJ全国ひきこもり家族会連合会の本部活動に従事。家族会立ち上げやピアサポーター研修、対話交流会事業を10年に渡って企画実施。KHJジャーナル「たびだち」副編集長(91～109号)。相談や親の学習会、講演活動を通じ、当事者視点の理解、家族支援の重要性を伝える。2019年より東京都ひきこもりに係る支援協議会委員。NPO法人案の会りー理事。KHJ広報アドバイザー。公認心理師。共著に『ひきこもり大学』(潮出版社)



受講費

区分	SHIP! 購読者	当事者	一般
1回分	¥3,500	¥1,500	¥5,500
6回分	¥17,500 (1回分無料)	¥7,500 (1回分無料)	/
10回分	¥28,000 (2回分無料)	¥12,000 (2回分無料)	¥49,500 (1回分無料)

※プログラムの内容は変更になる場合があります。あらかじめご了承ください

※団体申込割引があります。お問い合わせください

〈お問合せ〉

一般社団法人SHIPひきこもりと共生社会を考えるネットワーク
info@shiphiki.jp

